

「パリ・イルドフランスとノルマンディー
小川康博 印象派を巡る旅 2018 夏」展

2018年8月3日

日仏交流 160 周年にあたる 2018 年、パリ・イルドフランス地方観光局ならびにノルマンディー地方観光局は、日仏の芸術運動の双方に多大な影響を与えた印象派の風景を巡る「パリ・イルドフランスとノルマンディー 小川康博 印象派を巡る旅 2018 夏」展を 9 月 22、23 日の両日、東京ビッグサイトで行われる「ツーリズム Expo ジャパン」フランスブースにて開催いたします。

芸術の歴史を揺るがしながら新たな絵画の潮流として興隆した印象派は 19 世紀後半、パリ、そしてイル・ド・フランス地方、ノルマンディー地方にて誕生しました。現在知られる印象派絵画の多くはパリ、セーヌ河流域、ノルマンディーの沿岸で生まれたのです。

当展はモネの「サン・ラザール駅」や、ルノワールの「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」など、印象派の代表的作品に並列し、画家たちにインスピレーションを与え彼らがキャンバスに描き出した風景を、写真家 小川康博氏が旅し、現代的な視点から撮影した写真作品を展示するというもの。

小川氏は今夏、イル・ド・フランス、ノルマンディーを旅し、印象派の名画 12 点が生まれた場所を訪れました。当時の印象派画家と同じ場所に立ち、彼らとの芸術的な対話を通して感じたことや、彼らがキャンバスの上に表現した「幸せなひととき」について彼の現代的な解釈などが写真作品を通して発表されます。

「パリ・イルドフランスとノルマンディー 小川康博 印象派を巡る旅 2018 夏」展

場所： ツーリズム EXPO ジャパン 2018 (於東京ビッグサイト) フランスブース I-40
日時： 2018年9月22日(土) 10:00~18:00、23日(日) 10:00~17:00

▼クロード・モネ作「サン・ラザール駅」



Claude Monet, *La gare Saint-Lazare*, 1877, Musée d'Orsay, Paris
© RMN-Grand Palais (Musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski

▼小川康博撮影「サン・ラザール駅」



© Paris Region Tourist Board / Yasuhiro Ogawa



小川康博 (おがわ・やすひろ)

1968年神奈川県生まれ。フリーランスの写真家。二十代の時に独学で写真を始める。2000年に太陽賞、2009年に日本写真協会賞新人賞を受賞。写真集に、中国・三峡ダムの建設で長江に水没する風景を追った『Slowly Down the River』(クレオ刊)、厳しい過疎に直面する日本の離島の風景を収めた『島語り』、亡き母への追憶を写真で表現した『Cascade』(共に蒼穹舎刊)がある。フィルムカメラとデジタルカメラを使い分けながら海外や国内で撮影を続けている。東京在住。ホームページ www.ogawayasuhiro.com

© 2018 Studio Puyfontaine

広報用画像は <http://bit.ly/2LLoxcd> よりダウンロード頂けます。画像利用は当展覧会の記述を含む記事内への利用に限られます。指定のクレジットを必ずお入れください。

